

银杏坂タイム

◎ 仙台市子供相談支援センター

所長 大友 重明

仙台市青葉区錦町 1-3-9

TEL 022-214-8602 (相談支援係)

022-214-8848 (青少年指導係)

第 140 号 令和 3 年 11 月 4 日

10月のセミナーでは多くの学びがありました

10月4日、5日、25日には「子育てに生かす家族のコミュニケーション」セミナーが実施されました。講師を務めてくださった先生方から多くの視点や学びをもらいましたので、参加者の声とともに紹介させていただきます。（*は参加者からのコメントの抜粋）

□一日目 布柴 靖枝先生

「親の思うシアワセ 子の思うシアワセ」はそれぞれ違うので「自分なりのシアワセ」を大切にしていけること、健康な家族であるために親が程よい自己肯定感を持つこと、人間なので怒りという感情はあって当然だが、人をコントロールしようとし過ぎないこと、「べき」で人を責めないことを意識していきたいというお話をいただきました。

- *「カウンセリングは明るいということ」が世の中に定着するといい。
- *子の幸せを願う毎日だったが、親が幸せになることの意味も知った。
- *子供たちの話をよく聞き、前向きな言葉を掛けていきたいと思った。



□二日目 菱沼 正志先生

コロナ禍における生活の変化についてデータを通して児童生徒の自死事案が増加していることに言及していただきました。ゲームやネット依存にも話題が及び、ゲームの世界で他者から認められる心地よさとの関連についても教えていただきました。事例を通して、「受けとめる」「決めつけずに聞く」「親として大人としてできることをする」ということを大切にしようと思いました。

- *今までとは違う生活となった子供たちが抱えるストレスについて、理解することができた。
- *学校再開の時は、友達と会って楽しかったと帰ってきた。家族としてもそういうことを話題にしていくといいのだと思った。
- *子供と接するとき、言葉の影響というものを常に意識していけないといけないと思った。



□三日目 植木田 潤先生

講座を通して、LD、ADHD や ASD に関する特性の理解を深めるために、例え話や追体験を通して「生きづらさ」について学びました。特性を持つ子供たちと向き合う私たちにとって、成長してほしいからこそ、集団の中にどう入れるかということに注力します。「障害は努力の問題ではない。」「強みを伸ばし、うまく付き合う。」「診断されているかではなく、生きづらさがあったら、支援をしていきたい。」という先生の言葉を通して広い視野を持って関わりたいのだと思いました。

- *具体的なエピソードだった。予想以上に生きづらさを感じていることが分かった。
- *長い目で子供の成長を考えたい。
- *どうしたら集団に入るかを考えがちだったが、その子の心地よさも配慮したいと思った。



□子育てセミナー 加藤 和子先生

10月12日には今年度2回目となる子育てセミナーがありました。脳の仕組みから見る子育てと発達段階に関するお話をしていただきました。幼少期に怒りなどの感情耐性を学ぶ上で、大人が寄り添い声掛けすることの大切さを学びました。またセミナーの後半では、参加者一人一人の悩みに丁寧に答えていただき、勇気とやる気をもたらえる締めくくりになりました。

- ・幼児の感情に「嫌だったね。」「痛かったの。」という言葉添えて価値付けする大切さ
- ・イヤイヤ期に向き合う家族（母親）への労い
- ・イヤイヤ期などで困る保護者に向けて、「すぐ過ぎてしまうお子さんのかわいい時期を楽しもう」という感覚



健全育成大会の開催が間近です

11月20日（土）に、日立システムズホール仙台（仙台市青年文化センター）を会場に、『仙台市児童・青少年健全育成大会』を開催します。サブタイトル「未来に翔け 子供たちの力」、今回の大会テーマ『今、できることを頑張ろう～夢に向かって～』のもとにさまざまな発表があります。検温・換気・手指消毒などコロナ感染症対策を講じた上での開催となりますが、来場者の皆様と有意義な時間を過ごしたいと思います。

- 上杉山通小学校吹奏楽部
- 少年の主張各区大会の最優秀賞受賞者による、少年の主張の発表
- かのっこ支倉伝承太鼓（鹿野小学校）
- 仙台南高等学校音楽部合唱団
- 津軽三味線 浅野祥さんの演奏

仙台市児童・青少年健全育成推進会議ホームページ：<https://www.growing-up-sendai.com/>

ふれあい広場サテライト～冬に向けて～

ひんやりとした空気を感じられる時期になりました。ふれあい広場サテライトでは12月のイベントとしてクリスマスコンサートを計画しています。楽器演奏が得意な利用者がスタッフと共に、課題曲を決め、現在拠点内で練習中です。

利用者がクラリネットを奏で始めると、周りでゲームやおしゃべりをしていた利用者も興味津々。「吹いてみる？」と誘われ、照れながらもそれぞれ新しいリードを装着し挑戦します。初心者にはコツをつかむことが難しく、なかなか音が鳴りません。

そんな中、高校生の女子利用者が「ポー」と音を出すことに成功した瞬間、そこにいた全員から拍手喝采！仲間の頑張りを自分のことのように喜ぶことができた温かい場面でした。

また、当日に使用する飾り付けや演奏者が身に付けるおそろいの小物作りも同時進行で作成しています。秋の過ごしやすいこの時期を利用して、みんなで協力して準備を進めていきたいと思っています。

クリスマスコンサート当日の成功を祈りながら、今日もサテライト拠点では楽器の音が鳴り響いています。

